果堂文庫について

上島善重は、安２年長岡村（現箕輪町）に生まれ、明治１０年の西南戦争に従軍し、その後累進して砲兵大尉となった。日清戦争が起こるや少佐に進み、第三軍の独立重砲隊の大隊長として、旅順攻撃に参加した。

退役後、高遠町に移住し、大正３年から６年まで町長となった。

在任中は、進徳図書館の建立に伊沢修二らと共に尽力し、果堂と号し郷土研究に趣味をもった。

善重は、少年のころより坂本天山に私淑していたが、殊に天山の砲術に関しては、自分も砲兵科であり、熱意をもって資料を蒐集整理し、事蹟の研究に打ち込み、後年信濃教育会が出版した「天山全集」の基礎をなした。

その他、高遠関係の資料多数を筆写整理した、数十冊にわたる「果堂遺稿」は、郷土史研究の貴重な資料となっている。

この「果堂遺稿」は、当図書館では「果堂文庫」と言っている。

大正４年、上島善重は９００冊からの図書を寄付している。

善重は、少青年時代は不遇で、学問には強い執着はあったが、学校へ入学も出来ず、さりとて書籍購入の資もなかった。思うように学問を修めるには書籍がいるが、今の少青年に自分の経てきたような悲をさせたくない。また、善重は、郷土史の研究に努めていたが、高遠は歴史もある上に、山紫水明の地で、また幾多の名士を出している。学徒の勉学には最適の地であるから、それに資するため図書を備えをおく要がある、というような考えで、図書の蒐集寄贈を計画していた。しかし、図書には限りもないから、先ず高遠にふさわしい図書、歴史関係のもの、又大部のものや、何人にも役立つようなものなど、いろいろ考慮して、長い間心掛け、次第に求めていた。

そして、大正４年、高遠図書館の書庫が完成したのを機会に、寄附をした。

平成１年３月

高遠町図書館